

標準委員会 リスク専門部会 外的事象PRA分科会 地震PRA作業会

第2回 (RK6WG1) 議事録

1. 日時 2016年1月19日 (火) 10時00分～12時40分

2. 場所 電中研 第4会議室 (大手町ビル7F)

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 平野主査 (電中研)、高田副主査 (東大)、成宮幹事 (関電)、宇賀田 (内山委員代理) (大成建設)、蛭沢委員 (電中研)、尾之内委員 (電中研)、織田 (谷口委員代理) (日立GE)、堤委員 (電中研)、豊嶋委員 (NEL)、原口委員 (MHI)、樋口委員 (東芝)、平田委員 (原安進)、美原委員 (鹿島)、村松委員 (東京都市大)、山崎委員 (原安進)、吉田委員 (大林組) (16名)

(欠席委員) 小倉委員 (電中研)、中村委員 (日大)、皆川委員 (埼玉大) (3名)

(常時参加者) 岩谷 (中電)、黒岩 (MHI)、高橋 (鹿島)、竹内 (四電)、林 (関電)、東山 (根岸常参代理) (原電エンジニアリング) (6名)

(オブザーバ) 吉田 (JAEA)、眞部 (MHI)、山口部会長 (東大) (3名)

4. 配布資料

RK6WG1-2-1 第1回地震PRA作業会議事録 (案)

RK6WG1-2-2 人事について

RK6WG1-1-3 地震PRA作業会 委員・常時参加者名簿

RK6WG1-2-4 地震PRA標準講習会プログラム (案)

RK6WG1-2-5 誤記チェックへの対応関連資料 (RKTC36-8-1)

RK6WG1-2-6 外的事象レベル2 PRAの改定準備について (RHTC36-4)

RK6WG1-2-7-① 「核燃料施設のリスク評価に関する実施基準：201*」策定に係る検討状況

RK6WG1-2-7-② 発電炉向け原子力学会標準の核燃料施設への適用整理結果 (地震PRA)

RK6WG1-2-7-③ 核燃料施設のリスク評価に関する実施基準：201* (地震PRA標準の引用方法に関する代案)

RK6WG1-2-7-④ 簡易ハイブリッド法を用いた建屋及び機器の地震リスクの評価方法 (案)

参考資料 なし

5. 議事内容

議事に先立ち、成宮幹事より、今回の作業会は出席委員16名で定足数（13名）を満たしており、作業会として成立していることの確認があった。

（1）前回議事録の確認（RK6WG1-2-1）

成宮幹事より、前回議事録（案）の紹介があり、特にコメントなく承認された。

（2）人事について（RK6WG1-2-2、RK6WG1-2-3）

成宮幹事より、森山常時参加者の解除が報告された。また、平野主査より、委員・常時参加者名簿について修正等あれば幹事に連絡するようとの依頼があった。

（3）講習会プログラムの確認（RK6WG1-2-4）

成宮幹事より、講習会の講師を中心に集まって打ち合わせた際の主な議論について口頭にて紹介があった。また、作業会委員であっても講習会の参加には正式な申し込みが必要なこと、講師については担当日以外の講習への参加もQ&A対応のためという名目で可能なので、希望があれば幹事へ事前に申し出てほしいとの説明があった。講習会用PPT資料は1/26までに各講師が作成し幹事及び林常時参加者へ送付することとなった。

（4）誤記チェックへの対応（RK6WG1-2-5）

成宮幹事より、誤記チェック対応が必要となった経緯、地震PRA標準が（エンドースされたとの記載は誤りであり標準委員会にコメント中ながら）優先対象の一つであること、チェックの方法、チェックの時期等について紹介があった。チェックの方法として執筆担当とは別の委員によりクロスチェックする方法がよいのではとの意見に対して、式については専門家でないと判断できないので、担当によるチェックとのダブルで行う方針とし、3/25までにチェックを完了すべく、3月中頃を目途に分担等を事務局にて調整し連絡することとなった。

（5）外的事象レベル2 PRA標準の改定準備について（RK6WG1-2-6）

成宮幹事より、レベル2 PRA分科会で準備を進めている外的事象への適用に係る次期改定に向けての対応状況、懸念事項、対応スケジュール等についての紹介と、専門家による協力についての要望があった。主なコメントは以下のとおり。

- ・ 地震による格納容器の機能低下、損傷部位によって放出される核種が異なること等、フラジリティの専門家が加わっての議論が重要。
- ・ 「炉心損傷直結事象の対応」は、Practically Eliminatedをどう考えるかの議論であり、「その他」ではなく改定のポイントとして列記した方がよい。
- ・ プラント損傷状態は再定義が必要。レベル1 PRAにも関係する。
- ・ ソースタームの観点で重要な事故シーケンスを見落とすことのないよう、広範な事故シナリオの分析をソースタームの観点から実施することを要求すべき。
- ・ さらに、格納容器機能喪失、ソースタームの観点から、分析、評価すべきプラント損傷状態を定義して、それに必要な多重損傷状態などの事故シーケンスの同定と頻度評価をレベル1PRAへ要求することが重要。

これらのコメントを持ち帰りレベル2 PRA分科会で検討するとともに、専門家による協力はレベル2 PRA分科会から別途依頼することとなった。

(6) 核燃施設リスク評価標準について (RK6WG1-2-7-①～④)

昨年末のリスク専門部会への中間報告時に、本作業会と外的事象PRA分科会の意見も聞いてはどうかとのコメントがあったことを受けて、村松委員、吉田オブザーバ、眞部オブザーバ、高橋常時参加者より、核燃施設リスク評価標準の策定状況、特徴、地震PRA標準の引用方法に関するオプション案、簡略化手法の適用等について紹介があった。頻度だけでなく影響の程度を合わせたGraded Approachへの適用方法、簡略化手法の妥当性、再処理施設における簡略化手法の適用性、「重大な事故」の定義、等についてコメントがあったが、内容を十分に理解できていない状況でのコメントであることを考慮して、今月末までに、必要な説明資料提供、関連文献紹介の要請を含めて追加コメントを、核燃料施設リスク評価分科会に送付することとなった。

(7) 次回作業会日程の確認他

その他として、地震PRA標準の英訳化の状況について質問があり、改定前のバージョンへの対応が中断したまましばらく動いていない旨の説明があった。

次回開催時期は別途調整することとなった。

以 上